

学校教育目標

学び合い かかわり合い ともに育つ子ども



【めざす子どもの姿】

- と 友だちとともに育つ子ども
- き **希望と夢を持ち続ける子ども**
- わ わかるまで学び合う子ども
- に 苦手なことにもチャレンジする子ども
- し 心身ともに健やかな子ども

【めざす学校の姿】

- 学ぶことが楽しい学校
- 笑顔とあいさつがあふれる学校**
- 家庭・地域と協働する学校



I 確かな学力の定着

- 1 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善（研修・学習）
- 2 ICT活用による情報活用能力の育成（ICT）
- 3 言語活動の充実による読解力・表現力の育成（学習）
- 4 学びに向かう力の育成（学習）

IV よりよい未来社会を創造する力の育成

- 1 吉田山等地域の特色を活かした教育の推進（吉田山）
- 2 キャリア教育の充実（学習・生指）
- 3 防災・安全教育の充実（保体）
- 4 現代的諸課題に対応する教育の充実（学習）

II こころの健全な育成

- 1 人権教育の充実（研修）
- 2 道徳教育の充実（学習）
- 3 読書活動の充実（学習）

III からだの健全な育成

- 1 運動好きの子どもを育てる授業づくりの充実（保体）
- 2 健康教育の充実（保体）
- 3 食育の推進（保体）

子どもたちにつけたい力

「生きる力」・「共に生きる力」の育成

V 全ての子どもの能力を伸ばす教育の実現

- 1 学びを支える指導体制の充実（教務・支援・登サ）
- 2 特別支援教育の充実（支援）
- 3 日本語指導の充実（学習）
- 4 登校サポートの充実（登サ）
- 5 「チームとき西」での支援の推進（支援・登サ）

VI 学校教育力の向上

- 1 教職員の資質・能力の向上（研修）
- 2 チームで取り組む生徒指導の充実（生指）
- 3 地域と協働した学校づくりの推進（CS）
- 4 学びの一体化の充実・推進（研修）
- 5 学校業務の適正化の推進（全）

子どもをささえる学校づくり



## 令和7年度常磐西小学校づくりビジョン達成に向けた30のアクションプラン

### I 確かな学力の定着

- ① 「主体的・対話的で深い学び」につながる課題づくり、つきたい力を明確にした「四日市モデル」に基づいた授業づくりに取り組みます。【学習・研修】
- ② 情報活用能力の推進に向けて体制を整備し、デジタルシティズンシップの視点で情報モラル教育を実践していきます。【ICT 戦略】
- ③ 「読解力を育む『20の観点』」等を活用し、各教科・領域の中で考えを論理的に説明したり議論したりする時間を確保します。【学習・研修】
- ④ 家庭と連携し、学習に継続して取り組むことで基礎学力の定着、学習規律の確立を目指します。【学習】
- ⑤ 子どもたちが主体的に取り組む自主学習を重視し、探究する姿勢を育成していきます。【学習】

### II こころの健全な育成

- ① 人権教育を系統的に取り組むことにより、人権教育の3つの側面（知識的側面、価値的・態度的側面、技能的側面）を育成していきます。【研修】
- ② なかまづくりをすすめることで互いの思いを共有・共感できる居心地のよい学級経営に努めます。【研修】
- ③ 差別解消や人権侵害に気づき、問題点を見抜く力を高めるなど教職員の人権課題に対して正しい認識を深めるよう研修に取り組みます。【研修】
- ④ 「考え、議論する道徳」の時間を充実することで、自分事として道徳的価値を深める授業づくりを推進します。【学習】
- ⑤ 図書ボランティアや図書館司書と連携し、図書館まつりや読み聞かせなど読書活動の充実に努めます。【学習】

### III からだの健全な育成

- ① 主運動につながる「新5分間運動」を取り入れ、「体を動かす楽しさ」を感じられるような主体的な活動に取り組みます。【保体】
- ② 生涯にわたり運動に親しむ資質・能力を育成するために発達段階に応じた指導に取り組みます。【保体】
- ③ 学校三師や関係機関を積極的に活用することで、自他の健康や命の大切さについて学び、共に生きる社会づくりの実現に努めます。【保体】
- ④ 家庭と連携し、規則正しい生活習慣や食習慣の確立に努め、自らの健康管理について育成に取り組みます。【保体】
- ⑤ 各教科と関連して食育に継続的に取り組み、家庭・地域に積極的に発信して、食への関心を高めます。【保体】

### IV よりよい未来社会を創造する力の育成

- ① 吉田山を活用した教育を系統的に位置づけ、本校の特色ある教育の一つとして推進する。【吉田山】
- ② 地域人材を積極的に活用し、本物にふれる教育活動に取り組みます。【学習・CS】
- ③ 子どもたちの「非認知能力」を育成し、よりよい集団、学校生活を目指していきます。【生指】
- ④ 様々な想定での安全管理の徹底と実践的な訓練に取り組みます。【保体】
- ⑤ 子どもたちの生きる力を育成するために現代的な諸課題に対応する資質・能力を育成していきます。【学習】

## V 全ての子ども能力を伸ばす教育の実現

① 子どもたち一人一人を把握し、全教職員で全児童を見守り指導する体制を確立します。

【教務・支援・登サ】

② ユニバーサルデザインの授業づくりや特別支援教育の充実を図り、一人一人の教育的ニーズに応じた支援体制の充実を図ります。【支援】

③ 日本語の適応指導を充実させ、学習内容の定着を図るとともに多様な文化的背景や価値観を尊重する態度を育てる。【学習】

④ 校内ふれあい教室での指導を充実することで、児童の卒業後を見据えた支援体制を確立する。【登サ】

⑤ SC、SSW、関係機関等と連携し、支援の充実に努めます。【支援・登サ】

## VI 学校教育力の向上

① 年間1回以上の授業公開をすることで自己相互研鑽を積み、高い専門性と指導力を身につけます。【研修】

② 保護者との関係性、信頼を高め、教育相談等を通して問題の早期発見に努め、情報共有をし、複数で対応することで、問題解決に努めます。(O次対応)【生指】

③ 学校運営協議会で「めざす学校の姿、子どもの姿」を保護者、地域住民等に共有し、その実現に向けて教育活動の充実に努めます。【CS】

④ 保幼小中の連携を強化し、新教育プログラムをもとに指導方法や子どもの実態等を共有し、連続性のある指導に取り組みます。【研修】

⑤ 地域・保護者と連携することで、業務の適正化を図り、「働きがいのある職場」環境づくりに取り組みます。【全職員】

※子どもの教育活動については、OODA ループで取り組む。学校体制や学校行事については、PDCA サイクルで改善を図る。

### 【用語解釈】

\* **OODA ループ**：O (Observe 観察) O (Orient 状況判断) D (Decide 意思決定) A (Act 実行) 想定外のケースに対処する意思決定方法で現状に応じて臨機応変に対応できるため日々子ども対応で活用する。

\* **PDCA サイクル**：P (Plan 計画) D (Do 実行) C (Check 評価) A (Action 改善) 計画を立てて事項するのが前提であり、課題が明確になり目標がわかりやすいため、学校行事等で活用する。

\* **四日市モデル**：プロセス1 (問題の理解) プロセス2 (問題の特徴づけと表現) プロセス3 (問題の解決) プロセス4 (解決方法の共有) プロセス5 (問題の熟考と発展) に基づき主体的・対話的で深い学びを実現する授業スタイル

\* **デジタルシティズンシップ**：ICTの良き使い手となると同時によき社会の担い手になることを目指す教育

\* **読解力を育む20の観点**：四日市市新教育プログラムの「読む・話す・伝える」6つの柱の一つに取り組むための読解力を育くむための指標

\* **新5分間運動**：「汗が出る・声が出る・笑顔が出る」ことを目的に主運動につながる導入時で行われる運動

\* **非認知能力**：忍耐力、自制力、意欲、向上心、共感や協調性など点数化が難しい力

\* **現代的な課題**：「男女参画社会の実現」「主権者教育」「法教育」「消費者教育」「租税教育」「金融経済教育」等教科横断的に取り組むべき現代社会の諸課題

\* **O次対応**：トラブル前の受け止め、接触である。保護者との関係性を高め、他人の思いを聴く姿勢が大切であり、学校組織で対応することが求められる。